

令和元年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
名瀬地区	宮古崎	0	60%	波当たりが強く、ハナヤサイサンゴ属が優占。被覆状のニオウミドリイシや直径20cm程度のミドリイシ属小型群体もみられる。食痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集が保たれている。被度は昨年度と同様60%。
	宮古崎東	0	30%	2007年まで大量発生していたオニヒトデ食害により礁斜面下部のサンゴは壊滅状態だが、礁縁部に直径30～40cmの群体が散見できる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様に30%。
	デン浜	0	70%	2007年まで大量発生していたオニヒトデ食害により礁斜面下部のサンゴは壊滅状態。浜中央の水路付近に卓状ミドリイシ類が残る。大きいもので直径50～60cmほどに成長している。周辺では新規加入のサンゴは少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様70%。
	知名瀬大浜	0	70%	2007年まで大量発生していたオニヒトデにより礁斜面のサンゴは壊滅状態であったが、周辺海域と比較し、新規加入のミドリイシ属が多く、小型群体が散見できる。多い所では1平方メートルあたり10群体以上の群体がみられる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度60%から70%に増加。
	大浜	0	30%	礁縁にはミドリイシ属の小型群体が生存し直径20～30cmほどの群体が多い。今年度は白化の発生も無く、オニヒトデの食痕もみられなかったが、2017年の白化により2割程度、死滅が見られた。新規加入のミドリイシは少なく、直径20～30cmの指状ミドリイシ属やハナヤサイサンゴ属群体がみられる。被度は昨年度20%から30%に増加。
	摺子崎	0	25%	2007年まで大量発生していたオニヒトデにより礁斜面のサンゴはほぼ全滅。礁縁にハナヤサイサンゴ属が優占しているが、ミドリイシ属の小型群体も多くみられる。直径20～30cmほどの群体が多い。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様25%。
	赤崎	0	40%	1998年に発生した大規模な白化現象によりサンゴは壊滅。新規加入が少なく回復が遅れていたが、今年度は直径20～50cmの卓状および指状ミドリイシが散見。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様40%。
	名瀬湾立神	0	40%	1997年の台風や1998年の白化現象により卓状ミドリイシ群落壊滅。2010年から小型群体もまばらにみられるようになっていく。直径は20～50cm程度の指状ミドリイシ属群体が多い。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様30%から40%に増加。
	山羊島	0	30%	ハマサンゴ属が優占。大型の塊状ハマサンゴ群体が点在し、枝状のコビエダハマサンゴ群落が広がるが、破損部分も多くみられる。ミドリイシ属は極僅かにみられる。透視度は10m程度でシルトが堆積している。白化群体はみられなかった。被度は昨年度同様30%。
	キョンナ	0	40%	1998年白化現象で壊滅後、2006年に被度10%まで回復してきたが、2007年にオニヒトデにより再び壊滅した。サンゴは急速に回復がみられ、直径20cm～40cmの卓状および指状ミドリイシ属群体が散見できる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様40%。
	有良	0	15%	98年の白化から回復がみられ始めた2006年に被度15%だったが、2007年に大量発生したオニヒトデによりほぼ全滅。ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴがまばらにみられる。直径10～20cm程度の指状ミドリイシが多い。サンゴの新規加入が少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様15%。
	芦花部	0	15%	98年の白化から回復がみられ始めた2006年に被度5%だったが、2007年に大量発生したオニヒトデによりほぼ全滅。直径10cm程度のミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴが少数みられる程度で、新規加入のサンゴは少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様15%。
	摺子崎礁池	0	5%未満	かつて優占していたコモンサンゴ群落は壊滅し、塊状のハナガササンゴの小群落や、塊状ハマサンゴが点在する。ショウガサンゴの小型群体が散見できたが、ミドリイシ属の新規加入は、ほとんど見られない。エダコモンサンゴの小型群体がごく少数みられた。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様5%未満。
	摺子崎礁原	0	20%	卓状ミドリイシ属が優占。2007年まで大量発生したオニヒトデのリーフ内への進入を阻止し、サンゴを保全できた海域。直径50～70cmに成長した卓状ミドリイシも散見できるが、最近死滅したとおもわれる群体もみられた。オニヒトデの食痕はみられなかった。被度は昨年度同様20%。
	大浜礁池	0	5%未満	2017年夏期高温による白化で90%が白化し2017年11月には、白化により全体の8割が死滅した。その後も死滅は続いた。被度は2017年80%から2018年度5%未満に大幅に減少し、今年度も被度は5%未満。
	大浜礁原	0	30%	2007年まで大量発生していたオニヒトデ食害により礁斜面のサンゴはほぼ全滅したが、駆除等により礁原では全滅は免れ、卓状および指状ミドリイシ属が優占。大浜礁池では昨年の発火により9割以上のサンゴ群体が死滅したが、礁原では死滅群体は小数であった。被度は昨年同様30%。
崎原東	0	80%	卓状のクシハダミドリイシが優占。離礁上部は大型のクシハダミドリイシ群体に覆われている。樹枝状のヤスミドリイシ大型群体も少数みられる。白化や食痕もほとんどみられない。台風による破損もみられなかった。被度は昨年度同様に80%。	

令和元年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
協議会	嶺原南	0	30%	サンゴ食巻貝による食痕がみられる。被食率5%未満。2007年にオニヒトデの食害を受けた樹枝状ミドリイシ群落の回復が進んでいたが、2010年10月の奄美豪雨災害、2011年11月2日の奄美大島南部豪雨による泥土の堆積があり、被度は減少したが、回復傾向がみられる。樹枝状のミドリイシ属と塊状ハマサンゴが優占する。種の多様性も高い。被度は昨年同様30%。
	仲干瀬崎(小湊南)	0	80%	礁縁にはハナヤサイサンゴ群集が一面に広がり、礁斜面上部ではウスエダミドリイシやスゲミドリイシ等のコリンボース状のミドリイシ属小型群体も増加している。潮通しも良く順調に回復してきている。白化群体やオニヒトデ食痕、台風による破損もみられなかった。被度は昨年度同様80%。
住用地区	高浜東	0	75%	白化なし。礁縁上部に卓状ミドリイシ属の大型群体が広がる。直径2m以上のクシハダミドリイシや直径1m以上のココビミドリイシの大型群体がみられる。透視度10m以下。被度は昨年度同様75%。
	高浜	0	55%	白化なし。礁縁部に直径40～60cmの指状および卓状ミドリイシ群体が広がる。透視度15m程度。サンゴ群集は概ね健全な状態。ミドリイシ属群体の成長に伴い、被度は昨年度50%から55%に増加。
	鳩ノ崎	0	10%	白化なし。礁原上にはハマサンゴ、キクメイシ類の小型群体が点在し、海底に大型ハマサンゴ群体が点在する。新規加入のサンゴは少ない。被度は昨年度同様で10%程度。
	トビラ	0	10%	2010年奄美豪雨災害により海底やサンゴ群体上に泥土が堆積し70%が白化うち約半数が死滅し、生サンゴ被度は30%から10%に減少。2011年の北部豪雨では影響は軽微であったが、2011年11月2日の南部豪雨後には、再び泥土が堆積し白化群体がみられた。2015年梅雨時期に土砂の流出が発生し10cm程度の泥土の堆積みられたが、大部分は台風により洗い流された。2017年夏期の高海水温によると思われる白化群体が散見。白化率は50%。被度は2016年10%から5%未満に減少。今年度は白化の発生はなく、トビラ島側のサンゴ群集周辺の海底には、泥土の堆積はなく、表面にうずらとシルトが堆積している状態であった。被度は昨年度同様10%。
	スタルトビラ	0	25%	白化なし。湾奥小滝からスタルトビラに続く小規模なサンゴ礁。礁縁にココビミドリイシやクシハダミドリイシ等の卓状ミドリイシの群体がみられる。白化群体はみられず、サンゴ群体は健全な状態。被度は昨年度同様25%。
	和瀬	0	20%	2013年8月に軽度の白化、9月に台風の破損もあり、被度は40%から30%へ減少した。2014年度は白化の発生は無かったものの、台風による破損により、更に被度が低下した。2016年は8月から白化群体が増え、大型の塊状ハマサンゴも白化し部分死滅した。2017年は7月から白化が発生、ハナヤサイサンゴ類や樹枝状ミドリイシ群落が白化。今年度は白化はなく、被度は昨年同様20%。
笠利地区	赤木名	0	20%	白化なし。昨年はミドリイシ類やコモンサンゴ類が白化したが、死滅はみられなかった。赤木名港地先の塊状ハマサンゴ群落。ハマサンゴが優先し、群集全体の9割以上を占める。その他はキクメイシ属やハナガササンゴ属の群体が点在。ウスエダミドリイシ小型群体が少数みられる。被度は昨年度同様20%。
	前肥田	0	20%	白化なし。ユビエダハマサンゴ群落が2016年の白化により死滅。被度は昨年同様20%。
	赤木名立神	0	30%	白化なし。昨年はハナヤサイサンゴ群体は殆どが白化、ミドリイシ類も色が薄い軽度の白化群体が多く見られたが、死滅はごく少数であったと思われる。1998年にサンゴの白化現象によってサンゴは壊滅したが、2009年から小型群体が散見できるようになった。被度は昨年度同様30%。
	蒲生崎入口	0	10%	白化なし。オオウミキノコやバラウネタケ等、ウミトサカ科のソフトコーラル類が優占。直径10～20cmのミドリイシ属やキクメイシ科の小型群体も散見できる。種の多様性は高い。昨年の白化により、生サンゴ被度は昨年度同様10%。
	蒲生崎	0	35%	白化なし。昨年は指状ミドリイシ類やコモンサンゴ類に白化群体がみられたが、白化による死滅は無かった。蒲生崎周辺でサンゴの小型群体が多い海域。直径20～30cm程度の指状ミドリイシ属の小型群体が散見できる。オヤコビミドリイシやココビミドリイシ、ハナヤサイサンゴが多い。被度は昨年同様35%。
	佐仁	0	75%	白化なし。笠利半島西海岸においてサンゴの回復が特に順調な海域。直径50～60cmに成長した指状ミドリイシ属群体もみられる。波当たりが強く、被覆状態のニオウミドリイシも多い。礁斜面では樹枝状のアオサンゴ小群落が点在している。白化群体やオニヒトデ食痕はみられない。サンゴ被度は昨年度同様75%。
	用海岸	0	65%	白化なし。笠利半島東海岸においてサンゴの回復が特に良好な海域。卓状および枝状のミドリイシ属の小型群体が多くみられる。南側の縁脚には卓状のクシハダミドリイシ、ウスエダミドリイシの小型群体、北側の縁脚には樹枝状のアオサンゴ小群落が点在。種多様性も高い。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様65%。
	あやまる岬	0	55%	白化なし。礁斜面がほぼ垂直に落ち込む地形で、礁縁に卓状ミドリイシがみられる。直径40～60cmほどのクシハダミドリイシやココビミドリイシが多い。太枝状のヤスリミドリイシもみられる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年50%から55%に増加。

令和元年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
	節田	0	40%	白化なし。礁縁から礁斜面にかけて、クシハダミドリイシ、コユビミドリイシを中心に卓状ミドリイシ群落広がる。直径1.5mほどの大型群体もみられる。新規加入のミドリイシ類も多い。2017年の白化により樹枝状ミドリイシ群体の上部に部分死滅が見られ被度は減少したが回復がみられ、被度は昨年度30%から40%に増加した。
	明神崎	0	65%	白化なし。波当たりが強い礁縁にハナヤサイサンゴ科の群落広がる。スゲミドリイシ、コユビミドリイシなどの小型群体も散見できる。水路部には直径1mほどの卓状ミドリイシ類もみられる。白化群体、オニヒトデ食痕も無く、サンゴ群集は健全な状態。被度は昨年度60%から65%に増加。
	用安	0	25%	白化なし。水路北側の礁縁。直径20cmほどの指状ミドリイシ類の小型群体が多い。直径1mほどのクシハダミドリイシもみられる。新規加入のミドリイシ属のサンゴはやや少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度20%から25%に増加。
	神の子	0	80%	白化なし。礁池内に広がる枝状のトゲエダコモンサンゴや葉状のチヂミウスコモンサンゴ群落。昨年は群落の80%が色が薄くなる軽度の白化が見られたが、白化による死滅は確認できなかった。被度は昨年度同様80%に増加。
大和村	今里沖	0	5%	ハナヤサイサンゴやミドリイシ属の小型群体(直径10~20cm)がまばらにみられる程度で、顕著なサンゴの回復はみられない。新規加入のサンゴが少ない状態が続いている。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様5%。
	今里小浜	0	25%	コユビミドリイシ等のミドリイシ属小型群体が成長してきている。卓状ミドリイシ小型群体も少数みられる。サンゴ岩表面は付着藻類に覆われ、サンゴの新規加入は少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度20%から25%に増加。
	名音沖	0	70%	直径20~60cm程度のミドリイシ属の卓状群体が散見できる。卓状のクシハダミドリイシが優占し、コユビミドリイシやオヤコユビミドリイシ等のコリンボース状の群体も多い。サンゴの成長に伴い被度は昨年度60%から70%に増加。国直海域、毛陣海域と併せてオニヒトデ駆除海域(保全海域)に選定すべきである。
	名音隧道	0	40%	2005~2006年のオニヒトデ大量発生によりサンゴは壊滅し、その後、死滅サンゴ骨格上に直径10~15cm程度のミドリイシ属の小型群体がまばらにみられる。新規加入は名音海域より少ない。ナンヨウミドリイシやコユビミドリイシ、オヤコユビミドリイシが多い。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度25%から40%に増加。
	ヒエン浜中央	0	10%	クシハダミドリイシやヤスリミドリイシ、オヤコユビミドリイシ等のミドリイシ属の直径1m程度の大型群体が少数みられるが、新規加入のミドリイシは少ない。2005~2006年のオニヒトデ大量発生したが、集中的な駆除により全滅は免れている。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年同様10%。
	ヒエン浜戸円側	0	20%	クシハダミドリイシやヤスリミドリイシ等のミドリイシ属の大型群体が少数みられる。ミドリイシ属の小型群体も散見できるが、加入数は少ない。2005~2006年のオニヒトデ大量発生したが、集中的な駆除により全滅は免れている。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様に20%。
	ヒエン浜礁地	0	5%未満	礁縁では、半球状のリュウキュウノウサンゴが散見できる。指状ミドリイシ属の小型群体が少数みられるが、礁池では塊状ハマサンゴが少数みられる程度で、サンゴの加入がほとんどない状態。被度は5%未満。
	大山崎西浜	0	10%	直径10~20cm程度の指状ミドリイシ属やハナヤサイサンゴの小型群体がみられる。卓状ミドリイシの小型群体やキクメイシ科の小型群体もみられる。白化やオニヒトデ食痕もみられなかった。新規加入は少ない。被度は昨年度同様に10%。
	トルス	0	10%	直径10~30cmのコユビミドリイシやクシハダミドリイシ等のミドリイシ属群体が優占する。ハナヤサイサンゴも散見。サンゴ加入数は少ないが、サンゴの成長に伴い被度は昨年度5%から10%に増加。
	マッコ	0	25%	直径10~20cm程度のコユビミドリイシやオヤコユビミドリイシ等の指状ミドリイシ属小型群体が散見できる。潮通しもよくサンゴ群体は概ね健全な状態で、白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。サンゴの成長に伴い被度は昨年度20%から25%に増加。
	石川	0	15%	ハナヤサイサンゴや指状ミドリイシ属の小型群体がみられる。新規加入は少ない状態が続いている。死滅した大型卓状ミドリイシ群落の骨格が残る。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様15%。
	親川	0	30%	直径20~50cm程度の指状および卓状ミドリイシ属の小型群体や、ハナヤサイサンゴがまばらに見られる程度。リュウキュウノウサンゴ群落広がる。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年同様30%。
	宮古崎	0	60%	直径20~50cm程度の指状および卓状のミドリイシ属群体が多い。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。卓状ミドリイシの成長により、被度には昨年度同様60%。
志戸勤コモリ	0	20%	礁原上にある直径約50m、水深約10mのすりばち状の窪み(コモリ)。2018年は浅所のヤツデアナサンゴモドキがほぼ全て白化、深所のミドリイシ群落も2割が白化したが共に死滅はなかった。フトエダミドリイシやMontipora mactanensisなど、周辺海域にあまりみられない種も生存する。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。被度は昨年度同様20%程度。	

令和元年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
協議会	志戸勘礁池	0	10%	コモリから陸側に広がる礁池では、樹枝状ミドリイシの小型群体も多くみられ、数メートルに広がる群落も点在している。直径30cm程度のウスエダミドリイシ等もみられる。2017年、2018年の白化により被度は減少した。被度は昨年度同様10%。
	国直北	0	80%	国直集落北側の砂浜前面に広がるサンゴ礁。1998年のサンゴの白化現象によりサンゴは壊滅し、サンゴが回復しない状態が続いていたが、2010年度から小型群体が多くみられるようになり、被度はH23年度5%、H24年度10%、H25年度20%、H26年度50%、H27年度70%、H29年度80%と増加した。今年度も昨年度同様80%。
	国直	0	80%	国直集落前面に広がるサンゴ礁。1998年のサンゴの白化現象によりサンゴは壊滅し、サンゴが回復しない状態が続いていたが、2010年度からミドリイシ属の小型群体が散見できるようになった。被度はH23年度5%、H24年度10%、H25年度20%、H26年度40%、H26年度50%、H27年度60%、H28年度70%、H29年度80%と増加した。今年度も昨年度同様80%。
	毛陣礁池	0	60%	急激に落ち込む礁斜面の被度は40%。礁池内は、直径60～100cmのクシハダミドリイシやコビミドリイシ等の卓状ミドリイシ類が優占する。一部にサンゴの病気ホワイトシンドローム発症群体がみられた。被度は昨年度同様50%。
	親川南	0	60%	2010年の奄美豪雨災害により調査地点「親川」から約500m南東で大規模な崩落があり、土砂の流出や海底への泥土の堆積がみられ、崩落現場から100m以内では約半数のサンゴ群体に白化や死滅がみられた。その後サンゴは回復が進んでいる。被度は昨年度55%から微増し60%。
宇検村	曾津高崎東	0	80%	クシハダミドリイシ、コビミドリイシなどの大型の卓状ミドリイシ群体が一面に広がっており、直径1m以上の大型群体も多くみられる。サンゴ幼生の供給源としても、周辺海域の回復を促す重要なサンゴ群集である。新規加入のミドリイシ属も多い。サンゴの白化の発生はみられなかった。被度は昨年度同様80%。
	外浜	0	75%	礁縁では被度が高くなり、クシハダミドリイシ等の卓状ミドリイシ大型群体もみられる。20cm程度の小型ミドリイシ群体も散見できる水路部でも部分的に卓状ミドリイシが高被度でみられる。白化やオニヒトデ食痕はみられない。被度は昨年度同様75%。
	屋鈍崎	0	70%	2000年のオニヒトデ大量発生によってサンゴが壊滅した地点。礁斜面上部に、直径40～50cm程度のコビミドリイシやオヤコビミドリイシ等の指状ミドリイシ群体や直径50-80cmのクシハダミドリイシ等の卓状群体が多い。樹枝状ミドリイシ群体も散見できる。白化やオニヒトデ食痕も見られない。サンゴの成長により被度は昨年度50%から70%に増加。
	屋鈍	0	50%	2000年のオニヒトデ大量発生によってサンゴが壊滅した地点。直径30～50cm程度の指状および卓状ミドリイシ群体や樹枝状ミドリイシ群体が散見できる。白化やオニヒトデ食痕はみられない。被度は昨年30%から50%に増加。
	タエン崎	0	80%	2000年のオニヒトデ大量発生によってサンゴが壊滅した地点。直径10～30cmのコリンボース状および直径1mほどの大型卓状ミドリイシ属のサンゴ群体が散見できる。浅所では、樹枝状ミドリイシできる。白化やオニヒトデ食痕は見られない。サンゴの成長に伴い、被度は75%から80%に増加。
	タエン	0	70%	2018年にハナヤサイサンゴ類やコモンサンゴ類、アザミサンゴ類、卓状および樹枝状ミドリイシ属群体に白化が見られたが、死滅群体は少数であった。クシハダミドリイシ等の大型ミドリイシ群体や樹枝状ミドリイシの小群落もみられる。被度は昨年度60%から70%に増加。
	枝手久島北	0	75%	クシハダミドリイシ等の卓状ミドリイシ属が優占する。1m以上の大型群体も多くみられ、コビミドリイシ、オヤコビミドリイシも多い。新規加入のミドリイシ属のサンゴも多い。オニヒトデ食痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集が広がっている。一部で昨年台風による破損がみられ、被度は昨年度80%から75%に減少。
	倉木崎	0	40%	直径20～40cm程度のコリンボース状ミドリイシ小型群体が散見できる。コビミドリイシやオヤコビミドリイシが多い。ハナヤサイサンゴも散見できる。白化やオニヒトデ食痕はみられなかった。付着藻類が多く新規加入のサンゴは少ない。被度は昨年度同様40%
	船越海岸	0	80%	クシハダミドリイシ等の大型卓状ミドリイシ属が優占する。コビミドリイシ、オヤコビミドリイシも多くみられる。新規加入のミドリイシ属のサンゴも多い。オニヒトデ食痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集が広がっている。良好な環境が保たれている。被度は昨年度と同じ80%。
	ウマズバマ	0	25%	オオウミキノコやバラウネタ等のソフトコーラルが優占。半球状サザナミサンゴ科群体や被覆状コモンサンゴ属群体がみられる。被度は昨年同様25%。
	ハナゴイ	0	40%	食害なし。パラオハマサンゴ、ユビエダハマサンゴ、コブハマサンゴ群落が連なる。ミドリイシ属群体は少ない。オニヒトデ食痕や白化群体無し。被度は昨年同様40%。
	円	0	10%	コビミドリイシ等の指状ミドリイシ属の小型群体がみられるが数は少ない。全体的にソフトコーラルが優占する。オニヒトデ食痕や白化群体無し。被度は昨年度同様10%。
	嘉渡	0	10%	コビミドリイシ等の指状ミドリイシ属の小型群体がみられるが数は少ない。バラウネタケ等のソフトコーラルが優占する。オニヒトデ食痕や白化群体無し。被度は昨年同様10%。

令和元年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
龍郷町	久場	0	25%	水深3mのコビエダハマサンゴは死滅状態。水深5mからコビエダハマサンゴが少し目立つ。水深10mを越えるとリュウモンサンゴ群落、エダセンベイサンゴ群落が広がる。
	今井崎	0	30%	ソフトコーラル、ハードコーラルともに変化無く健全な状態。波当たりが強くニオウミドリイシ等もみられる。オニヒトデ食痕や白化群体無し。被度は昨年同様30%。
	赤尾木	1	25%	砂地に点在するハマサンゴは昨年度と同じく健全。ミドリイシ属群体も昨年度と変化なし。オニヒトデが1個体みられた。被度は昨年度30%から25%に減少。
	倉崎	1	25%	塊状ハマサンゴ優占。直径60cm程度の卓状ミドリイシ群体も少数見られる。オニヒトデ食痕や白化群体無し。被度は昨年同様25%。
	白浦	0	10%	昨年と変化なし。コブハマサンゴは健全。樹枝状ミドリイシ属群体が減少。オニヒトデ食痕や白化群体無し。被度は昨年15%から10%に減少。
	戸口アーチ	0	25%	ミドリイシ属群体は少ない。ハマサンゴ、ソフトコーラルが優占。オニヒトデ食痕や白化群体無し。被度は昨年同様25%。
	戸口アウン	0	25%	ハマサンゴ、ソフトコーラルが優占。指状のミドリイシ属小型群体がまばらにみられる。オニヒトデ食痕や白化群体無し。被度は昨年同様25%。
戸口落水	0	25%	卓状のクシハマミドリイシ大型群体も少数みられる。直径30cm程度の指状ミドリイシ属が多い。オニヒトデ食痕や白化群体無し。被度は昨年同様25%。	
瀬戸内町	安脚場	4	50%	前年度と比べると、被度の変化はなかった。
	黒崎	0	25%	浅瀬にはまばらにサンゴがあり前年度より、若干ではあるが被度が上昇した。
	実久	0	60%	夏場の白化現象の影響がさほど無かった。若干ではあるが被度が下がった。
	デリキョン岬	0	30%	前年度より、若干ではあるが被度が下がったが大きなテーブルサンゴが残る貴重な海域である。
喜界町	花良治	0	60%以上	オニヒトデ食痕は見られない。卓上ミドリイシ類多い
	塩道	0	55%以上～60%未満	オニヒトデ食痕は見られない。卓上ミドリイシ類多い。台風17号の影響で、サンゴの被害有り。
	坂嶺	0	5%以上～10%未満	オニヒトデ食痕は見られない。小さな入り江沖で、側溝からの赤土の流出が激しくサンゴの生育には環境が悪くサンゴ被度率はきわめて悪い。
	荒木	0	55%以上～60%未満	オニヒトデ食痕は見られない。アオサンゴが多く見られる。一番大きなハマサンゴの表面が、約7割ほど白くなっている。
徳之島町	畦	5	65～70	食痕もなく生育良好。ウバチイシノックが見られた。シコロ系生育良好。水温低下による白化は少し見られた。
	母間	4	65～75	食痕が見られた。水温低下による白化も少し見られた。
天城町	浅間沖	0	20～30%	新しいミドリイシサンゴ類が増えつつある。浅場に近いほど、成長が早い状況である。
	松原漁港沖	0	20～25%	サンゴ礁個体はしっかりとした成長を続けている。小型のサンゴが増えつつある。
伊仙町	喜念	3	50～74	シコロ糸、成育良好。枝サンゴ成育良好。
	喜念(コバンシャ)	4	50～74	シコロ糸、枝サンゴ成育良好。
	面縄(検福)	4	50～74	浜サンゴ成育良好。枝サンゴの枯れが目立った。
和泊町	ワンジョ	0	20%	台風でモニタリングのサンゴが消失。
	イダシチ	0	20%	前回と大きな変化はなし。
	出花	0	20%	前回と大きな変化はなし。
	西原	0	20%	前回と大きな変化はなし。
知名町	沖泊(北西)	0	5～25	傷面が小さくなってきていた。隣接の被覆状サンゴの多くは白化減少が目立った。
	ウジ浜沖	0	25～50	今年は台風の波浪によるサンゴの剥がれや折れがひどく、昨年に続いて減少傾向にある。
	屋子母	0	5～25	他のポイントよりか白色減少は少ないように感じる。
与論町	長崎沖(長崎の塔)	0	26.3	やや不良
	赤崎沖(礁斜面)	0	25	やや不良
	赤崎沖(礁池内)	0	25	やや不良
	皆田沖(礁池内)	0	11.3	不良
	茶花沖(ニュードロップ)	0	46.3	やや良好
	茶花沖(宮殿東)	0	51.3	良好